

## 授業科目の授業内容（シラバス）

科目区分	講義科目				
科目名（フリガナ） 英文科目名	国際連携最先端医学特論（コクサイレンケイサイセンタンイガクトクロン） International Collaborative Advanced Medicine				
対象学生	名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻（医学博士課程）				
必修/選択・単位数	必修・2単位	授業形態	講義	開講時期	1～3年次通年
担当教員名	粕谷英樹				
授業内容・計画等	<p>〔目 標〕 国際的研究組織構築のための戦略・手法・実例など幅広い知識を教授すること、研究立案から仮説、証明に至る解決の道筋を見つけるデザイン力を養うことを目的とした本専攻における特徴的な科目である。国際的研究者の養成、国際的視野の養成、国際的競争力を有する医学研究者の養成を目標とする。</p> <p>〔内 容〕 「国際連携最先端医学特論」はルンド大学の協力を得て両大学の研究者による講義を中心に、さらに学外から世界的に著名な科学者を招聘しての講義や、基礎・先進研究技術習得などを含むものである。研究デザイン力を養う講義では、有名科学誌に掲載された医学論文を教材に、著者が今までの過去のデータに基づいてどの様な仮説を立て、それを証明するためにどの様な証明実験を行い、その結果を基に仮説は真に証明されたのかを再検証し、論証に学生独自の考察を加え、以上を担当教員と議論する。その他、多様な学問的背景を育み国際的バランス感覚を養うため以下のごとく様々なテーマの講義を行う。</p> <p>〔計 画〕（オムニバス方式／全15回）          （粕谷 英樹／2回）          第1回 イン트로ダクション          本専攻の重要性、養成する人材像、両大学の特色、研究システムなどについて概説する。          第15回 総合討論          本特論を通して考えた疑問、具体的方策、期待など特に複数の国にわたって基礎医学研究・臨床研究を計画実施する場合の問題点について議論する。</p> <p>（門松 健司／3回）（共同）          第2回～第4回 国際的な研究組織の構築と課題          医学研究における思考デザイン、国際的研究組織構築の課題などについて有名科学誌に掲載された医学論文を教材として仮説、実験の過程、結果と結論への導き方につき検証し参加者で議論</p>				

	<p>する。</p> <p>(大野 欽司／3回) (共同)  第5回～第7回 基礎・先進研究技術  急速に発展する研究技術について基礎から最先端までの講義を行う。</p> <p>(藤本 豊士／7回) (共同)  第8回～第10回 分子標的探索のための国際共同研究  疾患治療の基本的コンセプトとなっている分子標的について具体例を示しつつ、共同研究・開発への道のりを示す。</p> <p>第11回～第14回 最先端医学研究の現状と課題  最先端医学研究の現状と課題、女性の社会進出を含んだリーダーシップやチームワークの発揮の仕方、プロジェクト・マネジメント能力の開発、国際的な研究課題における生命倫理、研究倫理と公正研究に関して現状と今後の目指すべき課題を学ぶ。必要に応じて、ゲストスピーカーを招聘して講義とディスカッションを行う等、多様な視点からの学びを深める。</p> <p>〔教材等〕 必要に応じて参考資料を配布する。</p> <p>〔学習上の留意点〕 積極的で主体的な参加を期待する。</p>
成績評価の基準等	出席、レポートあるいはディスカッションでの発表状況等により習熟度を総合的に評価する。